

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3611号 2017.4.22 発行

たん吸引や栄養注入など必要…医療的ケア児受け入れ、8県の保育所でゼロ

読売新聞 2017年4月20日

たんの吸引や栄養注入などが日常的に必要な医療的ケア児の保育所での受け入れ状況について、厚生労働省が初の実態調査結果をまとめた。

全国260か所に303人が通っていたが、8県ではゼロだった。受け入れ促進のため、同省は、ケアを担当する看護師を派遣するモデル事業を今年度始める。

調査は昨年7月、全国の認可保育所と認定こども園を対象に実施。2015年度の受け入れ人数を調べた。受け入れの報告があった303人を都道府県別にみると、大阪(49人)、滋賀(35人)、千葉(23人)、

医療的ケア児の受け入れが多かった都道府県

	施設数(所)	受け入れ数(人)
大阪	43	49
滋賀	20	35
千葉	20	23
東京	18	21
長野	15	17
神奈川	11	17

調査(2015年度。厚生労働省)

東京(21人)の順で多かった。青森、福島、山梨、岡山、山口、徳島、佐賀、宮崎の各県は1人も受け入れていなかった。

最多の大阪府では、大阪市など少なくとも8市町が、看護師の配置費用を補助するなどしている。同省も今年度のモデル事業で、看護師の派遣や保育士の研修受講でかかる費用などを補助し、体制作りを進める。

幼稚園については調査が行われておらず、全体の状況はわかっていない。

医療的ケア児の在宅医療に取り組む前田浩利・医療法人財団はるたか会理事長は、「保育所の利用を望む親子は各地にいる。看護師の配置だけでなく、緊急時に指示を出せる在宅診療医らと連携する仕組み作りも重要だ」と指摘している。

【医療的ケア児】 人工呼吸器や胃ろうを使い、たんの吸引や管での栄養注入などのケアが必要な子ども。早産児の救命率向上など医療の発達に伴い、増加しているとみられている。

学童保育の待機児童 解決のヒントは？



NHK ニュース 2017年4月19日

「待機児童」と聞くと多くの方は保育所の問題だと思うかもしれませんが。しかし、待機児童の問題は小学生が放課後に利用している「学童保育」でも問題になっています。その解決策となるヒントが「うどん県」、香川県高松市にありました。

なぜ学童の待機児童急増？

学童保育の待機児童が全国的に増えた背景にはおととしから利用できる

学年が小学3年生から6年生に拡大されたことがあります。これによって、今まで放課後の居場所や預け先がなかった小学4年生以上も利用できるようになりました。

しかし、厚生労働省の調査では去年の待機児童数を学年別でみると小学4年生以上が全体の4割をこえ、高学年では依然として入れない状況になっています。

なぜ香川県で待機児童増加？

一方、香川県でも深刻です。香川県は「子育て県」と銘打ち、学校や家庭にさまざまな支援を行っています。特に県庁所在地の高松市では、ここ数年、転入者が転出者を上回っていて、多くの人に移り住んで来ています。こうした背景が学童保育の待機児童数を押し上げているのです。

高松市の待機児童は昨年度はその前と比べておよそ100人増え、私が取材した高松市の小学校では増え続ける学童保育の子どものために、校庭の一角にプレハブを建てていました。それでもスペースが足りず、希望する子どもの8割足らずしか受け入れられていませんでした。

学童保育 新たな受け皿

そんな高松市の状況にお年寄りが通う、介護のための事業所がひとはだ脱ぎました。午後3時ごろ近くの小学校から子どもたちがやってきます。4年前から学童保育の役割を担っているのです。

事業所の負担で、元保育士を雇いました。子どもたちの受け入れは、いい刺激になるので、お年寄りにもメリットがあると考えたのです。

子どもたちが来ると、お年寄りたちの表情がいきいきとして、積極的に話しはじめていました。お年寄りの1人は「子どもたちがいるとにぎやかになり、ニコニコして笑うことも

たくさんある」と話していました。

一方、子どもたちにも、いい変化が現れているといいます。ある子どもの母親は「お年寄りと話す時はゆっくりと大きな声でしゃべらないといけないとか、相手のことを考えながら行動ができるようになった」と話すなど、子どもの成長を感じているようでした。記者が取材に行った時も子どもたちは元気よくあいさつをしてくれましたし、事業所に来ていないお年寄りが



いると、『〇〇さんどうしたの?』と心配する子どももいて、まるで家族のようだと感じました。

子どもを受け入れる試み各地にも

高松市と同じように子どもたちの居場所作りの取り組みは各地に広がっています。

東京・江戸川区にあるすべての公立小学校では校舎内に放課後、子どもを預かるための教室が設けられています。江戸川区では、空き教室を利用したり、校舎を建て替える時には初めから専用の教室を作って、すべての小学校でこうしたスペースを確保しています。その結果、両親が働いているなどの理由がある子どもたちだけでなく多くの子どもたちの受け入れを可能にしています。

工夫で相乗効果を

記者がこの問題取材しようと思ったきっかけは、共働きをしている小学生の子どもを持つ友人たちから、「保育所の時とは違って小学生になると放課後に面倒を見てもらえるところがない」という悩みを聞いたことでした。その取材の過程で、「学童保育の待機児童問題」が深刻になっていることがわかりました。

待機児童を解消するには、子どもたちの預かる場所を確保すればよいだけだと考えがちですが、今回取材をした施設での子どもたちとお年寄りとの交流のような「相乗効果」を生み出す知恵と工夫が、各地で求められています。

<いのちの響き>ある知的障害者の更生(上) 自分を見つめ直し償い

東京新聞 2017年4月20日

屋台でカキを販売する男性(右)と施設の代表=岐阜県内で

雨で客足が鈍い。負けじと、男性(33)の声が大きくなる。「さあっ! おいしいカキはいかがですか」

三月下旬、岐阜県内の神社の縁日。夜になり、出店が軒を連ねた参道の一角に、愛知県西尾張地方にある障害者就労支援施設が構える店があった。毎月の縁日のたび、利用者数人が出向き、焼きガキを販売する。



男性も施設利用者の一人。中度の知的障害が

あり、漢字の読み書きやお釣りの計算が苦手だ。自分の気持ちをうまく表現できないと、一方的に話し続けてしまうこともある。

それでも、慣れた手つきでカキをむき、気さくに客と会話する様子を、隣で手伝う男性代表(67)はしみじみと見つめた。「よう板についてきた」。施設に来た三年前は品物を客に手渡すのがやっとだっただけに、見違えるようだった。

男性は長崎県出身という。六歳から名古屋市内の児童養護施設で育てられた。兄弟も同じ施設にいたが、ほかの家族の所在は分からず、「生みの親の記憶もない」という。

小中学校には施設から通い、野球や剣道が好きだった。しかし、漢字や計算の授業にはついていけず、多くの時間を特別支援学級で過ごした。上級生から「なんで勉強できんの」とからかわれるたび、見返せないのがつらかった。

特別支援学校高等部を中退後、学校の紹介で障害者を受け入れているゴミ収集会社などで働いたが、長続きしなかった。やがて、夜の繁華街をうろつくようになり、そこで出会った少年らとミニバイクの窃盗や置引などの非行に走った。「警察から逃げるスリルが楽しかった」

成人後は、キャバクラや風俗店の客引きをしたという。会社勤めしていたころから障害がない同僚との給与の差に不満があり、「昼の仕事より稼げると誘われた」のが理由だった。

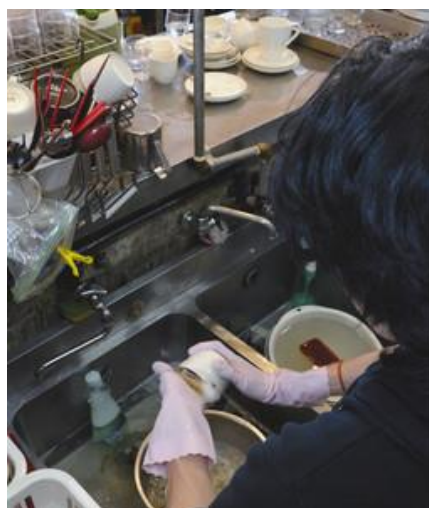
しかし、金を求める生活の代償は軽くなかった。二〇〇九年、逮捕され、昏睡（こんすい）強盗罪で懲役三年八カ月の実刑判決を言い渡された。判決では、知人女性と共謀し、テレクラで男性会社員をホテルに誘い出し、睡眠導入剤を入れたコーヒーを飲ませて眠らせ、現金四万円入りの財布を盗んだことなどが事実認定された。「働いてもまともに給料をもらえない。日銭を稼ぐためには仕方ないと思っていた」と男性は振り返る。

しかし、逮捕後の取り調べや服役が心境に変化をもたらした。空き時間、六法全書を借り、読めない漢字を教わりながら、犯した罪について調べてみた。「自分の行いをどう思っているのか」。弁護士らに繰り返し尋ねられた質問の意味を考えるためだった。「楽しんで生きようとする自分の弱さが、周りの人に迷惑を掛けた」。まともに生き直すことが償いだと思った。

出所後、県内の市役所を訪ね、就労支援施設の紹介を頼んだ。しかし、逮捕歴があることを知りながら、受け入れようという施設はなかなかなかった。ようやく見つかったのが、現在身を寄せている施設だった。

あれから三年。「生活保護や障害年金と合わせても、収入は客引きしていたころの半分にもならない」。時折、そんな不満がこみ上げる。しかし「ほかに行き先はない」。その思いが、男性を踏ん張らせている。（添田隆典）

＜いのちの響き＞ある知的障害者の更生（下） 自立こそ一番の恩返し



東京新聞 2017年4月21日

勤務する喫茶店で洗い物をする男性＝愛知県内で

前科があるのを分かって、見ず知らずの自分を受け入れてくれる場所がある。昏睡（こんすい）強盗の罪で三年八カ月の刑期を終えた知的障害がある男性（33）は、二〇一四年五月、愛知県西尾張地方の障害者就労支援施設に向かった。「罪を償って出てきたんだから、過去にはこだわらん」というのが、施設の男性代表（67）の考えだった。

施設は、障害者総合支援法が定める「B型事業所」に区分される。企業への就職や、雇用契約を結ぶ「A型事業所」での就業訓練が難しい障害者に、内職などを提供する。代表は、男性にまず、住まいを世話し、生活保護の受給申請をして、作業所で衣類用防虫剤の袋詰めなどの内職を教えた。

ただ、代表の目に男性の勤務態度は必ずしも真面目には映らなかった。事業所でもらう工賃は月一万円ほど。「生活保護と障害年金を足しても、自由に暮らせない」と不満をぶつけた。気持ちがうまく伝わらないと、一方的にまくしたてる傾向もある。

しかし、地域のイベントや縁日などの出店では、表情が見違えた。内気で人と接するのが苦手な利用者が多い中、自ら進んで客に声を掛けた。「接客が向いてるのかもしれない」。そう考えた代表は一年前、新しい仕事を任せた。施設の近くでオープンさせたばかりの喫茶店の接客係だった。

注文取りから、配膳、皿洗いと、どれをやらせてもそつがなかった。計算が苦手なため、大人数の会計では、障害がない施設のスタッフらに手伝ってもらわないといけなかった。それでも、自分のもてなしが店の売り上げに直結しているという実感が、男性を生き生きとさせた。

代表は暇を見つけては飲食店やレストランに男性を連れて行き、店員の接客を見て学ばせている。「いろんな客と接していけば、誰に対しても落ち着いて話せるようになるんじゃないか」。いずれ就職面接などを受ける際、困らないようにとの気遣いだった。

「一日でも早く自立させたい」という代表の願いは、日増しに強くなっている。昨年末、脳梗塞で倒れて二週間ほど入院した。そう遠くないうちに自分が活動を続けるのは難しくなると悟った一方、自分がいなくなって施設が立ちゆかなくなれば、男性たちが行き場を失わないかとの不安がよぎる。

代表が倒れる少し前、男性には一般就労のチャンスが訪れていた。スーパーで生鮮食品を管理する求人を紹介され、面接に臨んだ。スーパーは前向きに採用を考えてくれた。でも、「長続きするか分からない」と自信が持てず、最終的に辞退した。

それでも、代表は「もうちょっとだ」と励ましてくれる。施設に来たころは、嫌気が差すと夜中に行方をくらますことがあったが、接客で自信をつけた今は逃げ出さなくなった。

次のステップに進めない焦りを覚えつつも、次のチャンスこそ、逃げずにつかみたいと思っている。言葉で代表にうまく感謝の気持ちを伝える自信はないけれど、「それが恩返し」と分かっているから。 (添田隆典)

「ラックン餅」嚥下障害患者に好評 松本協立病院が開発 中日新聞 2017年4月21日



「ラックン餅」などを手にする長嶋さん(右)と柳沢さん＝松本市巾上の松本協立病院で

食べ物をうまくのみ込めない嚥下(えんげ)障害がある患者でも食べられる餅「ラックン餅」が、松本市巾上の松本協立病院で病院食として出され、患者に喜ばれている。同病院が昨年十二月に開発し、一月から月一回のペースで提供している。

開発したのは、同院の言語聴覚士や調理師、管理栄養士計十一人でつくる「嚥下食検討チーム」。嚥下障害の患者らへのアンケートで、食べたいもの上位に餅があったため、開発に取り組んだ。

材料は、もち米の代わりに全がゆと白玉粉を使用。

湯煎して混ぜ合わせたものを冷却し、縦五センチ・横六センチ、高さ二センチの切り餅状にした。舌と上あごでつぶして食べられる軟らかさに仕上げている。

研究を主導した調理師の柳沢直人さん(35)は「もっちりとした食感と、軟らかさの両立に苦心した」と話す。

病院食として提供しているラックン餅(左下)。パスタ(上)とそばは完成間近だ＝松本市巾上の松本協立病院で

調理時の温度や湿度で軟らかさが変わるため、作れるのはまだ柳沢さんだけという。

三月三日には、イチゴや練乳、抹茶で赤白緑の三層にした「ラックンひな餅」も提供し、好評だった。

このほか、全がゆを使ったそばとパスタも開発中で、完成間近。食用油を混ぜてそば粉の粘りを弱めたり、パスタの風味を出すためにオリーブ油を加えるなど、工夫を凝らしている。

同病院の言語聴覚士長嶋健介さん(31)は「通常の病院食では完食も難しい患者さんから、おかわりの要望が出るほど喜ばれている。流動食だけでは、食が細がち。たくさん食べてもらえるように、食欲をそそる嚥下食でサポートしていきたい」と話した。

(川添智史)



線虫クンクン がん判定 1回数千円 尿1滴で 中日新聞 2017年4月19日

日立製作所は18日、体長が約1ミリの線虫に人の尿のにおいを嗅がせ、その反応から

がんを発見する自動検査システムを開発したと発表した。2019年をめぐりに装置の量産態勢を整え、医療現場への提供を目指す。1回数千円で、体への負担が少ないがん検査が可能になる。



日立製作所が開発した線虫による自動がん検査装置の試作機＝18日、東京都千代田区で

九州大発のベンチャー企業のHIROTSU（ヒロツ）バイオサイエンスと共同研究を進める。判定の精度は約9割に達しているといい、さまざまながんの種類も特定できるようにする。

線虫は犬並みに嗅覚が鋭く、がん患者の尿に近づく一方、健常者の尿からは逃げる性質を利用する。日立が試作した装置は、線虫と尿の配置に加え、線虫の動き方の撮影や結果の解析を自動で処理する。

画像診断などでは見つけにくい病巣を、一滴程度の尿で早期に発見できる。線虫は安く大量に増殖できるため、検査の基礎費用は1回100円から数百円にとどまり、装置のコストや人件費を加えても数千円に抑えられるという。

ヒロツバイオサイエンスは全国各地に解析センターを設置する構想で、アジアでの需要を見込み、沖縄県にも設ける方針。10年後には世界で年約13億人が活用する可能性があるとしている。

知的障がい者が自らの意思で参加し楽しめる！イベント『FATAFESTIVAL』、5月14日に奈良で開催

Sankeibiz 2017年4月21日

FATAFESTIVAL セッション

障がい者の個性を伸ばすことに着目し人気を集めている知的障がい者施設「FATACASA」を運営するNPO法人CORORO(所在地：三重県津市、代表者：永島いづみ)は、例年三重県津市で開催している障がい者向けイベント「FATAFESTIVAL」を、2017年は奈良県宇陀市にて5月14日(日)に開催いたします。



【FATACASA とは】

福祉施設で働いていた時、障がい者とのふれあいに世間との壁を感じた永島いづみ代表。「障がい者が持つ特性、無垢の優しさ、粹にとらわれない感性など、障がい者だけが持っている素敵な個性を伸ばせる場所を作りたい」と考え、知的障がい者を中心に子供からお年寄り、外国人までが通うコミュニティスペース「FATACASA」を2014年、三重県津市に開設しました。その個性的な雰囲気的魅力に、県外から通う人もいます。

【FATAFESTIVAL とは】

FATACASA 開設前の2012年から毎年5月の母の日で開催している、知的障がい者やお年寄りが健常者と同じポジションで楽しめる他にはないイベントです。

ステージでは歌や踊りが繰り広げられ、会場には飲食店からワークショップを行う企画店まで、様々なお店が出店しています。

こういったイベントはどうしても「障がい者のために何かをしてあげる」という雰囲気になりがちですが、FATAFESTIVALは「障がい者、お年寄り、外国籍、健常者、子供、みんなが同じ立場で楽しめる世界を！」をコンセプトに、来場者全員が同じ立ち位置で平等に参加しているのが特長。障がい者をはじめ、参加する全員が、受け身ではなく自らの意思で各ブースのイベントに意欲的に参加しています。一般の来場者も、ボランティア感覚では

なく、知的障がい者ならではのピュアな雰囲気や独特の個性に魅力を感じ、いっしょにイベントを作る感覚で集まっています。

また FATAFESTIVAL では、イベント限定の「FATA コイン」という独自通貨を使用しています。「FATA コイン」は、参加者全員の共通通貨、共通言語として流通している独自の通貨で、100FATA=100円として買い物ができます。

海外旅行初日に現地通貨に馴染めない…ということがありますが、日々そんな苦勞をしている障がい者やお年寄りも堂々と買い物ができるようにとの願いから、地域の高齢者や森林組合の協力により作られた木のコインです。

さらにイベントの最後を締めくくる、歌あり踊りありの FATA セッションも特長的です。プロの演奏者やアーティストも、引率役ではなく、障がい者たちと同じポジションで参加します。誰かに合わせて歌うのではなく、障がい者たちが自らリズムをとり満面の笑顔で参加する姿は、他にはない雰囲気を醸し出します。

【今後の活動予定】

2012年に開催した初回の FATAFESTIVAL 参加者は 200 人。しかし開催毎に共感し参加する仲間が増え、2014年には県内外から 1,200 人が集まりました。今では三重県内の音楽家、アーティスト、福祉、社会活動団体からの認知度も上がり、2016年は Facebook のリーチ数が 7,000 になりました。

今後はこの世界観を他県そして全国に発信していきたいと考えています。その初回として 2017 年は奈良県で開催。来年以降の開催地はまだ未定ですが、現在、他にはない障害者向けイベントとして人気が高まっており、三重、奈良のほか関西地区の各所から開催を望む声が届いています。

【開催概要】

日時 : 2017 年 5 月 14 日(日曜日) AM10:00~PM5:00

場所 : 奈良カエデの郷「ひらら」

所在地 : 奈良県宇陀市菟田野古市場 135-2

目印 : 宇陀市立菟田野中学校そば

入場費用 : 無料

URL : <http://fata.jp/news/fatafes>

会場 : <http://udakaedenosato.main.jp/>

【団体概要】

名称 : NPO 法人 CORORO

代表者 : 永島いづみ

所在地 : 三重県津市久居元町 2354-3

設立 : 2013 年 4 月

事業内容 : 障害者地域生活支援事業

(日中一時支援事業・文化関連イベント実施事業・
障害者高齢者子育て向けのコミュニティ運営事業)

URL : <http://fata.jp/>

ダウン症の人、9割が「幸せ」…仕事や趣味を楽しむ 読売新聞 2017年4月19日
テレビドラマでも披露したパーテンダーの演技を練習するあべけん太さん
(4月上旬、都内で)



ダウン症を抱えながら、楽器の演奏など趣味を楽しむのはもちろん、タレントとして活躍する人もいる。社会活動の幅が広がる中で、「ダウン症の人の9割以上が幸せ」という調査結果も出ている。(竹井陽平)

週末はタレント

「毎日が本当に幸せ」

平日は会社員、週末は「あべけん太」の芸名でタレント活動をする安部健太さん(30)(東京都世田谷区)は笑顔を見せる。

生まれてすぐにダウン症と診断された。それでも両親は「外に連れて行き、色々な人に合わせよう」と前向きな教育方針で、物おじしない性格に育った。2011年、オーディションに合格し、テレビのバラエティー番組やドラマに出演するようになった。16年に出演した番組では、全盲の落語家・桂 福点さんとコントを披露した。

安部さんは「台本を覚えるのは大変だけど、好きなことだから頑張れる。30代も充実した日々をしたい」と語る。

ダウン症は染色体異常が原因で、700人に1人生まるとされる。知的発達の遅れや心臓などの病気を伴うことが多い。

しかし、安部さんのような人は珍しくない。産婦人科医で、ダウン症に詳しいお茶の水女子大教授の三宅秀彦さんは「多くがいきいきと学び、働き、普通に生活している」と指摘する。

趣味を楽しむことも、今や当たり前だ。神奈川県横須賀市の戸部あゆみさん(23)は、ヘルマンハーブの演奏に夢中。ダウン症の人にも演奏しやすく作られた弦楽器で、弦の下にセットした紙に書かれたマークの順に爪弾けば、美しいメロディーを奏でられる。

母親の増江さん(57)は「コンサートに出るのを楽しみにしていて、衣装も自分で考えるんですよ。好きな曲は『幸せなら手をたたこう』です」と話す。

三宅さんら厚生労働省研究班がまとめた調査でも、ダウン症の人の幸福感の強さが裏付けられた。15年10～12月、日本ダウン症協会の会員5025世帯にアンケートし、12歳以上の当事者852人の回答を得た。

「毎日幸せに思うことが多いか」との質問に、「はい」「ほとんどそう」と答えた人が92%を占めた。「友達をすぐに作れるか」「父母や周囲の人に大事に思われていると感じるか」との質問にも、それぞれ74%、94%が肯定的だった。

啓発イベントも

現在は、生まれる前の検査でダウン症かどうか調べられる。臨床研究で一部の妊婦に行われているだけだが、胎児の染色体異常が分かった508人の9割以上が人工妊娠中絶をした。

医療の進展が「命の選別」につながりかねないという議論もある中、研究班の調査は、ダウン症の人への理解を深めてもらおうと、実施された経緯がある。

啓発イベント「バディウォーク」も12年から、国内各地で行われている。ダウン症のある人もない人も一緒に行進し、寄付を募る。16年の参加者は約4700人に上った。

東京都内でバディウォークを主催するNPO法人アクセプションズ理事長の古市理代さんは「イベントを一緒に楽しみながら、ダウン症を特別視することなく、どんな人も共生できる社会を目指したい」と話す。

バディウォークは、22日正午から、横浜市の山下公園でも行われる。

